

ボランティア活動の行動者率

昨年10月に「平成23年社会生活基本調査」が実施され、全国で約20万人の方々に調査票を提出していただきました。御協力ありがとうございました。今年7月に生活行動に係る結果が公表され、他の結果についても順次集計後公表されることになります。

今回は、生活行動に係る集計の中から、京都府のボランティア活動の行動者率（過去1年間に何らかのボランティアを行った10歳以上の人の割合）について見てみたいと思います。

図1は、ボランティア活動について10年前からの行動者率の変化を、種類別に表したものです。平成23年の調査期間が東日本大震災後だったためか、災害に関連した活動が上昇しています。それに対し、自然や環境を守るための活動は低下しています。

図2は平成23年の行動者率を年齢別に見たものです。子供を対象とした活動については、学齢期の子供をもつ方が多いからか35～44歳で高くなっています。災害に関連した活動については全体の率は低いながらも、どの年齢層においても一定の率で行動されている方がおられることがわかります。

今年の8月には京都府南部において豪雨被害が発生し、多くのボランティアの方が活動されました。今後も多くの方がさまざまな分野において地域社会に貢献できる機会が増えていくことが期待されます。

図1 京都府のボランティア活動の種類別行動者率

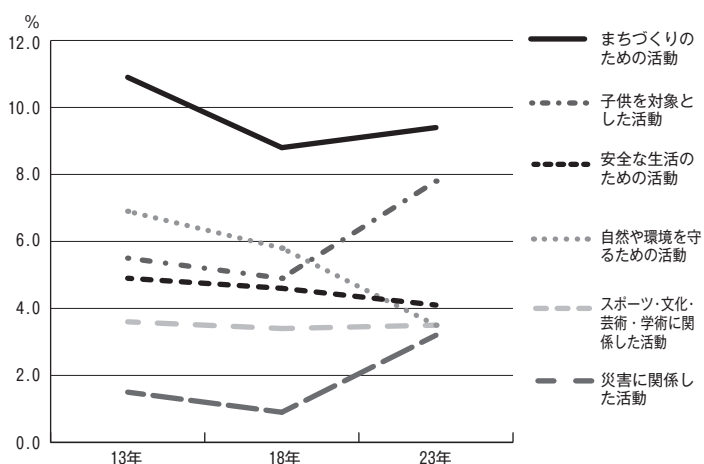


図2 京都府の年齢別ボランティア活動の種類別行動者率（平成23年）

